

## 第 4 章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法



1. 現状の説明

(1) 教育方法および学習指導は適切か。

【評価の視点】

- ・教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
- ・履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
- ・オフィスアワーの設定
- ・学生の主体的参加を促す授業方法（アクティブラーニング）
- ・国際化に対応した教育方法（学部・大学院）
- ・研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（大学院）

〈1〉 大学全体

- 1) 各学部では、学問の本質的な理解を前提とし、国家試験合格と卒後も見据えた知識・教養・技術を修得させるため、講義・演習・実習・少人数授業等を組合せ、教育効果が上がるよう授業を展開している。
- 2) 大学院各研究科では、社会人学生のため、土曜開講・昼夜開講を実施し、e-learning、オンライン視聴による補講等、学生の学びやすい教育環境を整備している。
- 3) 全学でアドバイザー制・担任制を導入し、履修相談や成績不良者への指導をきめ細かに実施している他、オフィスアワーを設定し、複数の窓口で学習相談・指導を行える体制が整備されている。
- 4) 国際化への対応として英語教育を強化している。全学部で TOEFL を導入し、学生のスコアアップと、英語コミュニケーション能力の修得、学部の特色に応じた専門用語の英語表現修得を目的とした教育を行っている。

〈2〉 医学部

- 1) 1年次の進級要件としては、必修8科目、選択必修8科目以上、選択18科目、合計34科目以上（2013（平成25）年度）としている。一般教養を幅広く学習するための配慮として、選択科目は、学生個人の希望により人文社会学系、自然科学系、語学系、スポーツ系と任意の系列の学科目に重点を置いた履修を可能としている。
- 2) 一般教養・倫理面の教育については、1年次必修科目として「医の人間学」を開講し、生命の誕生、ターミナルケア、高齢者医療・介護等、医師のあるべき姿や倫理について学習させている。
- 3) 外国語科目は英語を中心とし、より実生活に即したコミュニケーション能力を習得するために「TOEFL」をメインに実施している。「TOEFL」のスコアにより能力別クラス編成が行われ、これらテストにおいて一定スコアを満たすことが進級要件となっている。2012（平成24）年度は、「TOEICとTOEFL（PBT）」で一定基準（PBT470点）をクリアすることを要件としていたが、2013（平成25）年度からは、「TOEFL」のみとし、PBT475点以上又は、iBT53点以上（必須受験）とした。
- 4) 2年次から専門教育科目の授業が本格的に始まり、2年次は主として生理系、3年次は病理系の基礎医学を学習している。学生自身が学んだ系統講義を自らまとめるという学習過程を必要とし、次のとおり臓器別、病理・病態別の統合型カリキュラムの授業となっている。
  - ①医学医療序論，②細胞生物学・組織学総論，③代謝，遺伝情報，免疫，薬物，発生、④細

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

- 胞膜、筋、皮膚、血液、自律神経、心臓・循環、⑤梗塞、呼吸、呼吸困難、感覚、泌尿・体液、高血圧、内分泌、⑥糖尿病、消化、生殖、⑦解剖学(骨学実習・人体解剖実習)、⑧社会医学系(保健医療論・医学と統計)、医学とコンピュータ、⑨中枢神経、⑩感染・免疫、⑪病理・病態、⑫臨床入門(腫瘍・感染等)、⑬医学・医療と社会(衛生学・公衆衛生学・法医学)
- 5) 3年次、基礎医学のすべての授業が終了し、臨床医学に移る過渡期に基礎ゼミナールを開講している。5週間にわたり基礎講座へ配属し、実験への参加あるいは文献から総説形式にまとめさせている。自己学習を通じた問題解決型の学習課程としている。
- 6) 3年次秋から4年次秋まで臨床医学の講義を次のとおり統合化して実施している。旧来の独立していた講座別の系統講義と異なり、講座間の授業内容の調整や試験問題の出題において各科の協力が行われ、学生にとっては学習しやすい状況にある。①外科総論・消化器・外科一般・放射線総論、②心臓・血管・呼吸・胸郭・縦隔、③小児・周産期、④腎・生殖・泌尿器、⑤脳神経・精神・心身・老年医学、⑥感覚器・運動、⑦内分泌・代謝・栄養・アレルギー・膠原病・免疫・血液、⑧皮膚・頭頸部・感染症・中毒・災害・漢方。
- 7) チュートリアル教育を進めるために、本学部としての学生の医行為について次のとおりガイドラインを規定している。

#### 《順天堂大学医学部における臨床実習ガイドライン》

本学学生が所定の診療に関する教育を教授されるとき（以下「臨床実習」という。）、学生が行うことのできる診療行為のガイドラインを次のとおり規定する。

#### (1) 学生が臨床実習において診療行為を行うことができることでの条件

- ① 診療対象者の状態が安定しており、学生の診療行為が患者にとって精神的・身体的に過度の負担にはならないと判断できること
- ② 学生の医学知識・技能が十分に高く、その診療行為を遂行するに支障がないと判断できること
- ③ 可能であれば診療対象者に対して、学生が診療行為を行うこと、およびその内容を説明しておくことが望ましいこと
- ④ これら諸条件を満たしているときには厚生省の見解から医師法における違法性がない旨の通知があること(平成3年5月13日付厚生省健康政策局臨床実習検討委員会報告)

#### (2) 学生が行うことのできる診療行為の内容

- ① 本学において学生が行うことのできる診療行為を、厚生省の臨床実習検討委員会報告書に提示されている例示をもとに、「本学における学生の診療行為ガイドライン」(掲載略)のとおりに水準Ⅰから水準Ⅳに区分し提示する
- ② 学生にはできるだけ診療行為を行わせることが望ましいが、学生の知識・能力、診療対象者の状態あるいは病院の性格等を考慮して学生が行う診療行為の内容を特定すること
- ③ これらの水準は一般論として提示され、学生が行うことのできる診療行為の最大限度が示されていること。従って、実際の学生による診療行為は、当該科の教授によって決定される必要があること

なお、本院・分院の各病院長と相談のうえ、各病院の入院案内において、当該病院が教育病院であり、教員の指導のもとで本学学生が診療行為を行うことがある旨を明記している。

(資料4-3-1 第四期臨床実習概要)

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

- 8) 4年次に診察技法実習を5週間置いている。臨床実習の基礎となる実習で、臨床の現場に必要な思考過程を身につける模擬診療の学習を実施している。臨床実習に必要な知識と技能の習得を確認するため、共用試験 OSCE (技能) と CBT (知識) を実施し、臨床実習への参加可否の判断を行っている。
- 9) 4年次の短期集中型の実習だけでは実技を学生に十分身につけさせることは困難であることから、2年次に外科基本手技実習、3年次に内科診察技法実習の講義・実習を組み込み、4年次の実習でそれらの技法を集大成させるカリキュラムとなっている。
- 10) 学生が臨床教育を受講するにあたって、次のとおり学生並びに教員に周知徹底させている。  
基本方針：BSL では、学生の個人個人のレベルに合わせた教育を心掛ける。
- (1) BSL 開始時 (月曜日) に当該科の知識を復習、あるいは自習させ、pre-test (記述、口答等) を行う。
  - (2) BSL はチュートリアル方式とし、教育担当医 (病室・外来担当医、臨床研修医) と行動をともにする。教育担当医は、「教育する」といった大袈裟なことではなく、日常診療の極些細な知識技術、態度を学生に見せるように心掛ける。受持ち症例やその関連項目について簡単なレポートを提出させる。
  - (3) 病棟回診では、専属の教育担当医が重要な症例について解説する。手術や検査の前後で症例について解説する。
  - (4) カンファレンス (症例検討会、組織・画像検討会など) や病棟回診では、学生にもプレゼンテーションさせるよう心掛ける。
  - (5) クルズス (学生用勉強会) では、講義の繰り返しよりもケーススタディを中心としたものや BSL でより印象深く学ぶことができる項目について教育する。
  - (6) BSL 終了時に post-test (記述、口答等) を行い、当該科の BSL の minimal essentials に合格しているか否かを評価する。不合格者には補習を行う。
- 12) 6年次の前半は、最終学年となった学生が興味のある学問領域で学習する機会としている。授業は学生インターンシップ実習 (選択コース) と称し、プレジデント研修を希望診療科病棟で体験したり、海外の大学病院等で臨床実習を行ったりしている。
- 13) 学修者の能動的な参加のための学修を目的として、グループに分かれて実習・発表・討論を行うグループワークや、クリッカーを用いた TBL (Team Based Learning) 形式の講義等のアクティブラーニングを一部導入している。
- 14) 国際化への対応として、医学教育の国際的な質保証である国際認証受審を予定している。具体的対応として、臨床実習の見直しを行い、実習内容を変更し、実習期間を72週間へ延長した。
- 15) 学生が担任以外の教員を含めて教員に相談したいときに、気兼ねなく訪問出来る様にオフィスアワー制度を設けている。各教員のオフィスアワーについては、各学年の教室に掲示し、学生が自由に閲覧出来るようになっている。

#### 〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) 本学部は仲間との協働による対人調整力、コミュニケーション力の醸成を重視しており、学位授与方針として定めている。1年次は全寮制であり、キャンパス内の学生寮において医学部の学生と共に集団で生活する。1部屋を2人でシェアし、4部屋で1ユニット (「室」という) を構成して集団生活の基本単位としている。2室に1人、2年生が室長として一緒に生

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

活しながら、後輩の相談に対応している。学生寮は、室長が中心となって学生が自主的に運営することとしているが、3人の教員が寮監として監督・指導にあっている他、2人の職員が運営をサポートしている。寮生活が、大学への帰属意識の向上や、ピアサポート体制の構築に重要な機能を果たしている。

(資料4-3-2 スポーツ健康科学部パンフレット)

- 2) 実技・実習科目では、50人を超える規模のクラスに対して、大学院生によるTAを1名採用できることとしている。これにより、安全面に配慮しながら、学生一人一人の技術習得を支援しやすい授業体制を整えている。

(資料4-3-3 スポーツ健康科学部TA採用基準申し合わせ事項)

- 3) 学生の主体的な学修を促すために、「大学での学び」と「社会への巣立ち（キャリア教育）」をテーマとした授業を必修科目（科目名：総合講座）として、それぞれ1年次と3年次に設置している。学ぶ意義への理解を深め、目標に向かって高めるべき能力を明確化することにより、計画的な履修と受講意欲の向上を促している。また、この授業では、1集団10人以下のTBL（Team Based Learning）による学習法も導入されており、チームとして課題解決に取り組む中で多くの発言機会や、他の学生の多様な考え方に触れられるように工夫している。

(資料4-3-4 スポーツ健康科学部総合講座シラバス)

(資料4-3-5 スポーツ健康科学部総合講座（前期）道しるべ)

- 4) 電算機実習室においては「コンピュータ実習」を1年次に開講している。90%以上の学生が履修しており、レポート作成や情報収集に欠かすことのできない基本的な情報処理技術を初年次から習得できるように配慮している。

(資料4-3-6 スポーツ健康科学部コンピュータ実習シラバス)

(資料4-3-7 スポーツ健康科学部コンピュータ実習履修者数（H23-25）)

- 5) 毎年4月に、教務委員会が主催して全学生を対象にした履修ガイダンスを実施している。学則や履修方法などをまとめた「学生便覧」を全員に配布して、本学部での学習の進め方を指導している。担任制を導入しており、学生は個別に担任教員と履修相談を行うこともできる。また、各学生が、自分の学修の進捗や進路変更に伴う興味の変化に応じて柔軟に履修計画を修正できるよう、一部の科目（通年科目と実習科目）を除き、半期ごとに履修登録を変更できる制度としている。

(資料4-3-8 スポーツ健康科学部学生便覧)

- 6) 学修支援委員会や教務委員会と担任教員が強固に連携した指導を行っている。学修支援委員会では、学期期間中に出席状況の調査を行っている。また、教務委員会では半期ごとの成績状況を各学生について点検している。これらの結果は速やかに各担任教員およびクラブ指導者へフィードバックされて学生との面談の機会が定期的に設けられているので、学生の脱落を未然に防いでいる。結果として、毎年95%以上の学生が4年間で必要単位数を取得して卒業している。

(資料4-3-9 スポーツ健康科学部出席調査依頼状（学修支援委員会）)

(資料4-3-10 スポーツ健康科学部修業年限4年での学科別卒業率（H23-25）)

- 7) スポーツ健康科学部の全学年を対象に、コロラド大学での海外英語研修プログラムを実施しており、2単位を上限に外国語科目の単位として認定できるようにしている。2011（平成23）年度から2013（平成25）年度で24名がこのプログラムに参加した。

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

(資料4-3-11 スポーツ健康科学部海外英語研修プログラム参加者募集案内)

(資料4-3-12 スポーツ健康科学部海外英語研修プログラム参加者数推移)

(資料4-3-13 スポーツ健康科学部履修計画表)

8) 45時間の学修をもって1単位とする単位の実質化を図るため、2013(平成25)年度よりCAP制を導入している。1年間に履修できる単位は48単位以内である。

(資料4-3-14 スポーツ健康科学部CAP制・GPAに関する説明文書)

9) オフィスアワー制度を設け、シラバスに授業科目ごとにオフィスアワーを明記しているが、全科目明示には至っていない。

#### 〈4〉 医療看護学部

1) 授業形態は、講義、演習、実習で構成している。看護学では具体的な場面での働きかけを学ぶため、シラバスにおいて「授業の形態」の欄を設けて講義、演習、実習の組み合わせ等の状況を明記している。

2) 学習指導については、科目担当者からの指導はもとより、教務委員会の学年担当および学生のアドバイザー教員による情報の提供と共有を図り、学生個々あるいは全体に対して必要な学習指導をタイムリーに実施できるようなシステムになっている。

3) 毎年4月の授業開始前に、学生にシラバス、学生便覧、時間割等を配付し、履修方法や履修時の注意事項等について説明し周知を図っている。

4) 一日でも早く大学生活に馴染ませることを目的として、入学式前日にオリエンテーションを行っている。また、入学2週間後にフレッシュャーズデイキャンプを行っている。新入生同士、教職員とのリクレーションにより親睦を図るとともに卒業時の「4年後の私へ」という手紙を書き、これからの学生生活への気持ちを自照し、高等学校から大学生活への移行が円滑に行えるよう配慮している。

5) 新入学生には個々に「履修シミュレーションシート」を配付し、4年間を見据えた履修計画が立てられるよう配慮している。

6) 授業科目の履修に当たっては、将来の進路や学習目的、興味・関心等を考え履修計画を立てるよう指導し、学生の主体的な参加を促す授業を行っている。特に、教養と豊かな人間性をはぐくむため「人間と教養」科目群の選択に当たっては、できるだけ多くの科目を選択するよう勧めている。

7) カリキュラムの進行に伴い、各学年の実習前オリエンテーション、看護研究・課題実習前オリエンテーション、国家試験対策ガイダンス等々必要時に適切な履修指導を行っている。

8) オフィスアワー制度を設けて、学生がアドバイザー以外の教員も含めて教員に相談したいときに、気兼ねなく行けるよう、相談窓口を拡げている。各教員のオフィスアワーについては、各教員室のドアおよび掲示板に表示している。

9) 年に2回、成績を教授会で評価し、進級判定時に単位取得数が足りなくなる恐れのある学生に対しては、アドバイザー教員からの指導を行っている。卒業時には国家試験を意識した卒業試験(「人間の健康」科目群と「看護の理論と方法」科目群について)を実施し、成績不良者に対しては更に補講を実施する等、質の保証を心掛けている。

10) 「人間と言語表現」の科目群は、コミュニケーションの方法と技術の基本を身につける内容となっている。特に英語は、国際化の進む現代において広く知識や情報を得るためには必須のものとの認識に立ち、4年間を通じ、実践的な英語を習得できるようにしている。医療

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

現場における対話を想定した英語表現や医療用語も習得するプログラムである。英語力の客観的な指標として、外部試験（TOEFL ITP）を導入して評価している。

#### 〈5〉 保健看護学部

- 1) 学部の性質上、特に演習・実習科目が多いのが特徴であり、詳細な計画と十分な教員配置の下で少人数教育が実施されている。
- 2) 看護学では具体的な場面での働きかけを学ぶため、シラバスにおいて「授業の形態」の欄を設けて講義、演習、実習の組み合わせ等の状況を明記している。
- 3) 履修科目の上限設定は設けられていないが、文部科学省に承認された看護師・保健師養成教育課程において、4年間で適切な科目配置・授業時間数割り振りがなされている。
- 4) 履修指導について、新入生に対しては、一日でも早く大学生活になじませることを目的として、入学式の前後2日に渡りオリエンテーションを行っている。また、入学2週間後頃に新入生キャンプを行い、新入生同士、教職員、先輩とのレクリエーション、医学部附属静岡病院看護師による講演、グループワークや卒業時の「4年後の私へ」という手紙を書くなど、お互いの親睦を図ると共に自分のこれからの学生生活への気持ちを自照し、高等学校から大学生活への移行が円滑に行えるよう配慮している。在学生に対しては、新学期開始前にガイダンスを行い、学年暦、時間割等を配布し履修方法や履修時の注意事項等について説明し周知を図っている。（資料4-3-15 新入生キャンプ実施要領）
- 5) 授業科目の履修に当たっては、将来の進路や学習目的、興味・関心等を考え履修計画を立てるよう指導し、学生の主体的な参加を促す授業を行っている。特に、教養と豊かな人間性を育むため「人間と教養」科目群の選択に当たっては、できるだけ多くの科目を選択するよう勧めている。
- 6) 学生がアドバイザー以外の教員も含めて教員に相談したいときに、窓口を拡げて気兼ねなく行けるよう、オフィスアワー制度を設けている。
- 7) 国際化へ対応すべく、英語必修の他、「中国語」「スペイン語」を選択で開講し幅広く履修可能となるように工夫している。また、実践力を身につけるため、「英語表現（スピーキング）」の科目を英語で行い、外国人教員を非常勤で登用している。外国語科目は小人数クラスで行い、マルチメディア教室にはCALLシステムを導入し、e-Learningを活用した英語力強化にも努めている。
- 8) 成績不良や学業以外の問題で留年、休学等の問題が発生し履修計画が進行できなくなった場合は、アドバイザー及び教務委員長が細やかな指導を行っている。特に留年となった学生には、学部長・教務委員長が面接を行い、学習上の相談やその他気になること等を聞き必要な支援を行っている。留年者数は、2011（平成23）年度は2年生7名、1年生3名、2012（平成24）年度は2年生3名、2013（平成25）年度は1年生1名、2年生2名、3年生1名、4年生1名であった。また、単位の取得数が足りなくなる恐れのある学生に対しては、履修登録時にアドバイザーあるいは教務委員長からの指導を行っている。

#### 〈6〉 大学院医学研究科

- 1) 授業は、講義・演習・実験実習・自己学習等を組み合わせて構成され、学生の主体的参加を促す授業を行っている。
- 2) 修士課程では、社会人を広く受け入れる為、昼夜開講制を導入し、企業等で勤務する社会人でも勤務しながら学習できる環境が整っている。



## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

- 3) 社会人大学院生においては、勤務都合等によりやむなく講義を欠席する場合があるため、欠席講義をVODシステムによりオンラインで視聴し補講を行える教育環境が整備されている。
- 4) 博士課程においては、学生が指導教員と相談の上、年度ごとの履修計画を個別に作成し提出することを義務付けている。年度末には各自が設定した目標に対する自己評価を行った後、指導教員が適正かどうかを評価する体制が構築されており、個々の学生に合わせた教育研究指導が行われている。
- 5) 博士課程大学院生は、研究に従事しながら学会における認定医・専門医を取得すべく診療に参加することができる。履修管理・ポートフォリオシステムにより、認定医・専門医等の資格申請に必要とされる研究成果等の学修データの蓄積が可能となる。
- 6) 研究課題によっては、国内あるいは国外の他の大学院、研究所、医療機関等で研究を進めることができる。但し、指導教授と相談の上、医学研究科長に「学外施設学修申請書」を提出し承認が必要となる。この制度を利用して毎年数多くの院生が国内外に留学し、活躍している。

(資料4-3-16 学外施設学習申請書)

- 7) 大学院教育における教育内容や方法の水準を維持発展させるための学内組織として、大学院検討委員会を常設している。大学院検討委員会では必修科目については出席状況を把握し、欠席者へのe-learningの受講、次年度へのカリキュラムへの検討をおこなっている。毎月の研究科委員会において報告等を行い、また大学院改革に必要な審議を行っている。
- 8) 国際化への対応と国際交流の推進として、外国人留学生・外国人研究員を積極的に受け入れている。また、大学院の入学試験を外国に居ながら受験できる外国在住外国人入試制度を導入している。
- 9) 国内の他大学との交流については、下記の取組みを実施している。

#### (1) 連携大学院

医学教育及び医学研究のより一層の連携を図るため、2012(平成24)年度より、独立行政法人国立がん研究センターとの連携大学院制度を開始し、「最先端がん臨床研究コース」を設けた。当該制度においては、レジデントなどの国立がん研究センター職員が、国立がん研究センターに在籍しながら、国立がん研究センター内で本学大学院医学研究科博士課程の授業科目(大学院の専門プログラム)の単位修得を可能とし、国立がん研究センターで行った研究成果をもって学位取得ができる。

(資料4-3-17 国立がん研究センター最先端がん臨床研究コース)

#### (2) がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

文部科学省「平成24年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」事業採択に伴い、本学及び連携医科系大学(島根大学、鳥取大学、岩手医科大学)と非医科系大学(東京理科大学、明治薬科大学、立教大学)をICTと循環型人材交流で結び、地域から世界まで、さらに基礎から臨床まで俯瞰するがん研究者・医療人の養成を図っている。

(資料4-3-18 順天堂ホームページ「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」)

#### (3) 首都大学院コンソーシアム

共立女子大学、玉川大学、専修大学、中央大学、東京電機大学、東京理科大学、東洋大学、日本大学、法政大学、明治大学と「首都大学院コンソーシアム」学術交流に関する協定を締結している。

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

(4)このほか、随時、他大学と特別研究学生協定等を締結している。

10)博士課程3年次後半には研究中間発表(ポスターセッション)を実施し、それまでの研究成果及び学位論文準備状況に対する評価を指導教員以外から受け、その後の学位申請準備につなげている。また、英語力向上のための取組の一環として、2011(平成23)年度には原則英語でポスターを作成することを義務付け、翌2012(平成24)年度には発表についても原則英語を義務化し、国際的な研究者としてのプレゼンテーション能力の向上を図っている。

(資料4-3-19 3年次ポスターセッション案内・要領)

11)博士課程において、2012(平成24)年度より、1年次に「研究計画書」、2年次に「研究進捗状況報告書」を提出することを必須とした。「研究計画書」においては主任教授だけでなく研究指導教員を登録することとし、「研究進捗状況報告書」においては学生のみならず研究指導教員にも報告書の作成を求めている。

#### 〈7〉 大学院スポーツ健康科学研究科

1)「実践的かつ創造的な人材を育成する」というディプロマポリシーに基づき、演習や実習形態の授業を重視している。博士前期課程では58%(29/50科目)、博士後期課程では25%(4/16科目)が演習または実習形態の授業として開講されている。なお、博士後期課程では必修科目の「特別研究」が6単位の演習科目であり、学生は正課内授業の60%以上(6単位以上/卒業所要単位10単位)で演習形態の学習に取り組んでいる。

(資料4-3-20 スポーツ健康科学研究科大学院科目一覧表)

2)必修科目を除く授業科目は、受講人数が十数人以下と少数で、情報の一方的な伝達に終始しないよう、教員からの問いかけと学生側からの応答を主とした双方向性授業が行われている。

3)博士前期課程では、入学直後に全員が必修科目の「研究論文作成の基礎と展開」を受講する。この授業は、研究計画書を作成できるようになることを目的とし、単純な講義だけでなく、個人課題やTBL(Team Based Learning)形式の組み合わせで行われる。修士論文とその研究計画書を作成するプロセスのうち、論文を書くことの意味、研究倫理、学位論文の性質を学び、実際に全員が計画書を作成して授業内でピアレビューを行い、1年次9月にポスター発表会を行っている。本発表会で学生は、研究指導教員だけでなく、研究補助教員など全ての教員から助言・指導を受けることができる。

(資料4-3-21 スポーツ健康科学研究科「研究論文作成の基礎と展開」シラバス)

(資料4-3-22 スポーツ健康科学研究科「研究論文作成の基礎と展開」課題発表会案内)

4)スポーツという視座からの学際的な研究と知識を「スポーツロジー」という名称で表現している。博士前期課程の必修科目「スポーツロジー序論」では、医学を基盤とした健康総合大学としての本学の特色を活かして、医学研究科に所属する教員も参加したパネルディスカッションが行われ、研究科の枠を超えて医学的知識も兼ね備えたスポーツ健康科学研究の探求を可能としている。

(資料4-3-23 スポーツ健康科学研究科スポーツロジー序論シラバス)

(資料4-3-24 スポーツ健康科学研究科スポーツロジー序論プログラム)

(資料4-3-25 スポーツ健康科学研究科スポーツロジー序論説明会資料)

5)博士前期課程では、「プラクティカム(テーマ別に12科目)」という課題解決型の授業を行っている。各学生が実際に特定の組織やプロジェクトに関わり、その中で発見した課題についての問題点と取り組み、その成果や反省などをレポートとしてまとめることで実践的な課

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

題解決力を養っている。

(資料4-3-20 スポーツ健康科学研究科大学院科目一覧表)

(資料4-3-26 スポーツ健康科学研究科博士前期課程プラクティカム実施要項)

(資料4-3-27 スポーツ健康科学研究科博士前期課程プラクティカム実習ノート)

- 6) 履修にあたっては、大学院担当教員が全学生に対するガイダンスを年度初めに行っている。研究指導教員は担任の役割も担っており、学生は個別に研究指導教員と履修相談を行うことができる。

(資料4-3-28 H25 スポーツ健康科学研究科ガイダンス配布資料 (前期在学学生))

(資料4-3-29 H25 スポーツ健康科学研究科ガイダンス配布資料 (後期在学学生))

- 7) 学生への個別指導については、研究指導教員として前期課程33名、後期課程11名を配置している。収容定員に対する指導教員比では、平均して教員一人当たり前期課程3.7名、後期課程2.7名の学生を担当している。

- 8) 博士前期課程では、修士論文につながるコースワークとして「スポーツ健康科学研究方法論」と「スポーツ健康科学研究法実習」がカリキュラムに組み込まれている。また、博士後期課程では、研究指導にあたる「特別研究」が必修科目の授業として位置付けられており、カリキュラムとして計画的な研究指導が行われている。

(資料4-3-30 スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学研究方法論シラバス)

(資料4-3-31 スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学研究法実習シラバス)

(資料4-3-32 スポーツ健康科学研究科特別研究シラバス)

- 9) 修士論文の作成指導については、研究指導教員があたり、学生各自の研究テーマに沿った個別指導を行っている。論文作成上、研究指導教員以外の教員からも指導を受ける機会として、研究計画報告会(2年次4月)や修士論文中間報告会(2年次9月)が公開で行われている。

- 10) 博士後期課程においては、研究指導教員による指導の他、他分野の教員からの指導の機会も設けている。毎年9月末に「博士論文研究進捗状況報告会」を開催し、学生は各自の研究進捗状況をポスター発表により報告する。研究科所属全教員参加の下で実施されるため、学生は異分野の教員からの多様な意見を博士論文作成に活かすことができる。

(資料4-3-33 スポーツ健康科学研究科博士課程要覧)

- 11) 「スポーツロジ実践英語」では国際的な研究活動を促すために、国際学会での発表を目指して英語によるプレゼンテーションのトレーニングを行っている。また、「スポーツ健康科学英語特別講義」は英語による、学術的テーマの講義聴講や論文精読後に、その内容について学生同士のディスカッションを行っている。

(資料4-3-34 スポーツ健康科学研究科スポーツロジ実践英語シラバス)

(資料4-3-35 スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学英語特別講義シラバス)

- 12) 博士前期課程では、社会人の学びのニーズに対応するため、本郷キャンパスで全ての科目について夜間授業を開講している。

(資料4-3-36 スポーツ健康科学研究科パンフレット (H25))

#### 〈8〉 大学院医療看護学研究科

- 1) 授業形態は、講義、演習、実習、研究指導で構成している。

- 2) シラバスに「授業の進め方(授業形態を含む)」の欄を設けて、授業内容に応じて講義や演習、実習を適宜組み合わせ、内容を明記し、学生の主体的参加を促す授業を行っている。

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

- 3) 授業は、本郷キャンパスと浦安キャンパスで実施している。
- 4) 社会人学生への配慮として、必修科目については土曜日の1・2限開講、選択科目については平日5・6・7限の夜間にも開講し、社会人学生が科目選択をしやすいように時間割を工夫している。(資料4-3-37 医療看護学研究科時間割)
- 5) 学生は、入学の段階で専攻分野を選択し、研究指導教員は、学生の入学後、医療看護学研究科委員会で決定され、学生の専攻分野の教授又は准教授としている。研究指導教員は、学生の志望動機、関心分野、実務経験、学問的知識など学生本人と協議検討し、専攻分野ごと又は個別に履修指導を行っている。学生の研究課題を解明する過程を指導し、研究の実施、修士論文の作成・発表を支援し、個々の学生に対して研究指導の責任を負っている。
- 6) 科目担当教員は、必要に応じ、学生の研究課題解明に必要とされる相談に応じている。
- 7) 専門看護師受験資格を得るために、特別研究にかえて課題研究を行う場合でも、研究指導は、修士論文の指導に準じて行われている。課題研究指導教員は学生の研究課題を解明する過程を導く代わりに、主に実践フィールドを通して、研究課題を選び出す過程を導くことになり、課題の水準及び課題を追求するための研究方法等については、修士論文と同水準であることを指導のポイントにおいている。
- 8) 学生は、研究指導教員の指導を受けて修士論文のテーマを決定し、大学院修了予定年度の5月上旬までに「修士論文研究計画書」を提出する。同計画書は、問題の起案とそれに至った根拠、研究方法等を所定の用紙3枚程度にまとめ、表紙をつけたものとしている。
- 9) 論文テーマは研究科委員会によって審査承認される。
- 10) 学生は、論文(特別研究及び課題研究)を修了予定年度の1月上旬の指定日までに、提出しなければならない。
- 11) 提出された論文は、論文審査委員3名の審査を受け、2月上旬に最終論文として提出されなければならない。主査は、研究科委員会あてに所定の修士論文審査終了報告書を提出し、最終試験は公開とし、発表者は所定の時間内で論文の内容を説明した後、質問を受けることとしている。

### (2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。

#### 【評価の視点】

- ・シラバスの作成と内容の充実
- ・授業内容・方法とシラバスとの整合性
- ・シラバス記載内容について担当教員以外の第三者チェック体制

#### 〈1〉 大学全体

- 1) シラバスは、毎年度作成しており、カリキュラム委員会等においてチェックする体制が整備されている。学生への配付、ホームページへの掲載を行い、学生・教職員の他、第三者が確認できるようにしている。学生にはオリエンテーションを開催し、教育理念・教育目標・授業内容を、シラバスに沿って説明している。
- 2) 2014(平成26)年度より、全科目を対象として、シラバスに準備学習(予習・復習等)に必要な時間又はそれに準じた具体的な学習内容、到達目標を明記することとした。

#### 〈2〉 医学部

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

- 1) シラバスは一定の書式で毎年、全講義・実習について作成され、各学年に配布しているだけでなく、大学ホームページに掲載し、学外からも閲覧可能となっている。授業内容・方法とシラバスとの整合性については、カリキュラム委員の代表が記載内容をチェックしている。

#### 〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) シラバスは一定の書式で毎年全科目について作成し、インターネット上(「Juntendo Passport」という教学システムを利用)で学内外から学生が自由に閲覧できるようにしている。各教員で内容が異なるゼミナールについても、担当教員のそれぞれがシラバスを作成して他の科目と同様に全学生へ公開しており、ゼミナールの選択や受講生の計画的な学習に利用できるようにしている。

(資料4-3-38 スポーツ健康科学部シラバス)

(資料4-3-39 スポーツ健康科学部シラバス作成要領)

(資料4-3-40 スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科 Juntendo Passport 利用の手引き)

- 2) シラバスには、①基本情報(授業科目名、英語科目名、授業形態、対象学年、開講時期、単位数、科目責任者・担当者)、②到達目標、③成績評価方法、④履修上の注意、⑤使用するテキストや参考書、⑥授業計画(授業のテーマ、内容等)について学生にわかりやすく示すことを求めている。特に成績評価方法や授業計画については具体的に示すこととしている。
- 3) シラバスの記載内容については、前年度中に担当教員以外の教員による第三者チェックを実施している。第三者チェックでは、①カリキュラムポリシーに合っているか、②シラバスはわかりやすく記載されているか、③具体的に学習目標が示されているか、④成績評価基準が明確であるか、⑤各回の授業外学習の内容や方法が示されているかについて確認される。また、評価結果やシラバスの改善点に対するコメントは担当教員にフィードバックしている。

(資料4-3-41 スポーツ健康科学部シラバスピアレビュー依頼状)

(資料4-3-42 スポーツ健康科学部シラバスピアレビュー様式)

#### 〈4〉 医療看護学部

- 1) シラバスは、教務委員会において毎年検討し整備している。入学時にシラバスについて教務委員長から説明を行い、学生に対し教育理念、教育目標、授業内容等の説明に用いている。また、教員間の授業情報源として教科間調整にも活用されている。
- 2) 学生による授業評価項目に「授業はシラバスに基づいているか」があり、毎年点検・評価を行っている。

#### 〈5〉 保健看護学部

- 1) 本学部においては、入学時に学生全員に配付されるシラバスに基づき授業が展開されている。
- 2) シラバス様式は、教務委員会において毎年検討し整備している。入学時、学生に対して、教務委員長からシラバスに沿って、教育理念、教育目標、授業内容等の説明を行っている。また、教員間の授業情報源として教科間調整にも活用されている。
- 3) カリキュラム委員会においてシラバスの第三者チェックを行っている。

#### 〈6〉 大学院医学研究科

- 1) 大学院検討委員会において、毎年シラバスについて検討・整備しており、作成されたシラバスに基づいて授業が展開されている。
- 2) シラバスには、各授業の内容や評価方法、到達目標または学習目標等の詳細のほか、各規程

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

や履修上の留意点、学籍異動等の各種申請、各種研究助成、学修支援に関する事項等を理解しやすいように記述している。

- 3) シラバスは毎年度初に全大学院生及び各講座・研究室等に配布しており、入学時のオリエンテーションにおいてシラバスについて説明を行っている。また、教員間における教育内容の相互理解にも活用されている。

#### 〈7〉 大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) シラバスは一定の書式で毎年全科目について作成し、インターネット上(「Juntendo Passport」という教学システムを利用)で学内外から学生が自由に閲覧できるようにしている。シラバスによって大学院全体の教育内容が理解しやすいように配慮している。同時に、教員における教育内容の相互理解にも役立っている。

(資料4-3-43 スポーツ健康科学研究科シラバス(前期課程))

(資料4-3-44 スポーツ健康科学研究科シラバス(後期課程))

(資料4-3-40 スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科 Juntendo Passport 利用の手引き)

(資料4-3-45 スポーツ健康科学研究科シラバス作成要領)

- 2) シラバスには、①基本情報(授業科目名、英語科目名、授業形態、対象学年、開講時期、単位数、科目責任者・担当者)、②到達目標、③成績評価方法、④履修上の注意、⑤使用するテキストや参考書、⑥授業計画(授業のテーマ、内容等)について学生にわかりやすく示すことを求めている。特に成績評価方法や授業計画については具体的に示すこととしている。
- 3) 大学院のホームページ上で、教務事項についてよくある質問とその回答を閲覧できるように配慮している。

(資料4-3-46 スポーツ健康科学研究科ホームページ Q&A)

#### 〈8〉 大学院医療看護学研究科

- 1) 入学式直後に、シラバスを用いて教育課程のガイダンスを行っている。シラバスには履修モデルを示し、授業内容、授業の進め方、評価方法等が理解しやすいように配慮している。また、指導教員による学生の個別相談も行っている。

(資料4-3-47 医療看護学研究科教育要項 抜粋)

- 2) シラバスは毎年、研究科委員会で全体の見直しを行い、授業科目については科目担当者が修正し、内容を充実させている。
- 3) 授業の進め方は、年間の時間割として学生に4月に配布し、研究科長および事務職員から説明している。

### (3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

#### 【評価の視点】

- ・ 厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示、GPA活用)
- ・ 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
- ・ 既修得単位認定の適切性

#### 〈1〉 大学全体

- 1) 成績評価と単位認定は、以下のとおり各学部・研究科において行われている。

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

2) 他学における単位認定について、学部は、教授会の議を経て 30 単位を超えない範囲で、大学院は、研究科委員会の議を経て 10 単位を限度として認定する旨、学則、大学院学則に規定されている。

(資料4-3-48 順天堂大学学則 第70条第2項、第94条第3項、第118条第3項、第124条第3項)

(資料4-3-49 順天堂大学大学院学則 第8条第3項、第4項)

#### 〈2〉 医学部

- 1) 本学部の学習評価は、個別試験、判定試験、総合試験、卒業試験等をもって行われている。1年次の一般教養教育においては、授業時間中の成績を加味した形成的評価システムを取り入れた科目が多い。特に外国語科目では毎回の授業評価を形成的に利用している。
- 2) 基礎医学系授業を2年次では1年間、3年次では半年間にわたって行われることから、個別試験を実施し学生の負担を分散させている。
- 3) 3年次11月から4年次7月まで、総合化された臨床医学系授業科目を8グループ行っている。各グループ終了後に個別試験を実施している。短期間に集中して関連した授業内容が履修でき、学習効果は高い。
- 4) 臨床医学系授業科目については、試験実施後に正解と解説書を学生に配布している。正解等について質問がある場合には、当該教授から文章で回答している。
- 5) 4年次の9月からの第一期臨床実習においては、OSCE試験を導入している。第1日目は内科系診療技法、第2日目は外科基本手技を行っている。試験対象の臓器診療技法について当該臓器専門教員の担当者とせず、他の教員に評価担当をさせている。評価担当教員に対しては、事前に Teachers' Training を開催し、評価基準の統一を図っている。
- 6) 5年次の臨床実習では、毎月開催している BSL 担当教員会において知識、技能、態度に関する評価等に関する意見交換を行っている。教員会は教育担当であるため、学生のドロップアウト防止の機能を有している。進級の可否については、すべての科からの総合評価を集計し、進級判定会において審議している。
- 7) 6年次の卒業判定評価は、総合試験、卒業試験等の結果によって行われている。この結果と本学の医師国家試験合格とは相関がある。従って、これら卒業判定評価のための試験への徹底した取組みが、国家試験の高い高確率の維持と質の高い卒業生の輩出につながっている。

#### 〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) 前期末および後期末に試験期間を設けている。各授業のシラバスに示された到達目標に沿って、筆記試験やレポート等により総括的な専門的知識や研究能力の判定確認が出来るようにしている。成績は科目ごとに100満点で評価し、60点以上の評価であった者に単位を認定している。なお、授業の3分の2以上の出席（休んだ授業時間分は自主学習で補う）を必要とし、授業時間外学習時間を含めて所定の単位時間（1単位あたり45時間）の学習をもって単位を付与することとしている。

(資料4-3-8 スポーツ健康科学部学生便覧)

- 2) 2年次以降は、50点以上でかつ60点未満であった場合、年間2科目に限り、学科必修科目と資格必修科目の再試験を認めている。ただし、再試験で合格しても60点を上限としている。また、4年次には再試験不合格者に対して特別試験制度を設けて、留年者の減少や脱落者の防止を図っている。

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

- 3) 授業内での課題やレポート提出による評価は、随時実施して成績評価に含めることができる。ただし、成績評価方法については、予めシラバスで方法や配点を明示することを求めている。レポート提出やプレゼンテーションは、学生の有する知識量だけでなく、物事の考え方や研究の独創性などを推し量る判定法として活用している。
- 4) GPA 制度を導入して、学修の到達度レベルを数値で評価できるようにしている。S 評価（100 から 90 点）を 4 ポイント、A 評価（89 から 80 点）を 3 ポイント、B 評価（79 から 70 点）を 2 ポイント、C 評価（69 から 60 点）を 1 ポイント、D 評価（59 点以下）と出席不足を 0 ポイントとして、各科目のポイントの和を履修科目数で除すことで GPA を求めている。  
(資料 4-3-14 スポーツ健康科学部 CAP 制・GPA に関する説明文書)
- 5) 既習単位認定については、学則により 30 単位を超えない範囲で、他の大学または短大で修得した単位を本学で修得したものとみなすことが認められている。  
(資料 4-3-50 スポーツ健康科学部既習単位認定)
- 6) 放送大学との単位互換を行っている。現在の認定科目は、一般教育科目「国際関係論」(放送大学科目名「現代の国際政治」)と社会教育主事任用資格選択必修科目「高齢社会の生活設計」(放送大学科目「高齢者の生活保障」)の 2 科目である。  
(資料 4-3-51 スポーツ健康科学部放送大学開講科目の単位認定資料)
- 7) 語学に関しては、コロラド大学での 4 週間の海外語学研修プログラムを選択必修英語科目 2 単位分として認定している。  
(資料 4-3-13 スポーツ健康科学部履修計画表)

#### 〈4〉 医療看護学部

- 1) 成績評価は、出席状況、試験、レポート、授業態度等を総合的に判断して行っている。これらは、学生便覧、シラバスに記載し、学年初めに学生に説明している。なお、試験には、定期試験、追試験、再試験、卒業試験がある。卒業試験は、卒業に必要な単位を修得している学生に対して実施している。  
(資料 4-3-52 順天堂大学医療看護学部単位認定評価に関する規程)
- 2) 評価基準は、A (80 点以上)、B (80 点未満～70 点以上)、C (70 点未満～60 点以上)、D 再試験合格 (60 点)、E (60 点未満) で、A～D は単位修得認定、E は単位修得不可である。
- 3) GPA (Grade Point Average) 評価も実施している。評価は、A4.0、B3.0、C2.0、D1.0、E0.0 で評価し、 $\text{修得ポイント} = (\text{授業科目単位数}) \times (\text{その科目の Grade Point})$ 。GPA =  $(\text{修得ポイントの合計}) \div (\text{履修した授業科目の単位数の合計})$ 。GPA は、進級判定、卒業判定における総合判定データのひとつとして利用している。
- 4) 単位修得認定は、教授会によって行っている。学年成績については、学生には事務室で手渡し、保護者にも郵送している。
- 5) 入学前の既習得単位の認定に関しては、教務委員会で審査し、教授会において決定している。2011 (平成 23) 年度 (1 名)、2012 (平成 24) 年度 (1 名)、2013 (平成 25) 年度 (0 名) が単位認定を受けている。

#### 〈5〉 保健看護学部

- 1) 成績評価と単位認定は、「順天堂大学保健看護学部単位認定評価に関する規程」(資料 4-3-53) 及び「順天堂大学保健看護学部単位認定評価に関する規程に関わる実施申し合わせ事項」(資料 4-3-54) に基づき、教務委員会で審議し、教授会でも審議している。



## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

- 2) 「順天堂大学保健看護学部単位認定評価に関する規程に関わる実施申し合わせ事項」は学年進行に合わせて、実情に合致しているか、「学則」・「順天堂大学保健看護学部単位認定評価に関する規程」に定められている事項に沿っているかについて、教務委員会で点検を行い、改正の可否は教授会で審議している。
- 3) 評価方法は、シラバス記載の科目毎に明示され、学年初めに学生に説明しており、出席状況、試験、レポート、授業態度等を総合的に判断して行っている。
- 4) 「順天堂大学保健看護学部単位認定評価に関する規程」の評価基準はシラバスにも明示されており、A (80点以上)、B (80点未満～70点以上)、C (70点未満～60点以上)、D 再試験合格 (60点)、E (60点未満) で、A～Dは単位修得認定、Eは単位修得不可である。
- 5) 進級判定における総合判定データのひとつとして、GPA (Grade Point Average) 評価を利用している。特に、必修科目2科目不合格となった学生で特別指導の対象可否の判定の際にGPA評価を活用している。評価は、A (4.0)、B (3.0)、C (2.0)、D (1.0)、E (0.0) で評価し、修得ポイントは (授業科目単位数) × (その科目の Grade Point) で計算され、GPA は (修得ポイントの合計) ÷ (履修した授業科目の単位数の合計) で表される。
- 6) 学年成績については、年に2回 (前期成績、年次成績)、学生には担当アドバイザーから手渡し、事務室から保護者にも郵送している。

#### 〈6〉 大学院医学研究科

- 1) 修士課程においては、それぞれの科目に成績評価方法が設定されており、科目責任者が評価項目をもとに成績評価を行っている。最終筆記試験または最終レポートは100点満点で採点し、基準点60点以上かつ科目全体の成績評価をA～Dの4段階評価で評価し、年度末の進級判定会議で資料として用いられている。進級判定条件および各科目の成績評価方法はシラバスに明示されている。(資料4-3-55 順天堂大学大学院医学研究科規程 第5条)
- 2) 博士課程においては、①講義等への出席・履修状況、②履修評価票 (所属する研究室における演習・実習・研究等に対する担当教員評価)、③到達目標自己評価票 (各研究分野において設定されている到達目標の達成度に対する自己評価及び指導教員評価)、④研究進捗状況 (ポートフォリオシステムにより蓄積される学術・研究実績) を基に、医学研究科委員会・大学院検討委員会等において、慎重かつ厳正に成績評価・単位認定を実施している。
- 3) 博士課程において、優れた研究業績を上げた学生を対象とした3年修了制度を導入している。3年修了のための要件としては、大学院修了必要単位数を取得見込であり、次の要件の何れかを満たしている場合としている。
  - (1) 提出される学位論文 (主論文) 及び副論文<sup>\*1</sup> が、主要国際誌<sup>\*2</sup> に掲載<sup>\*3</sup> されており、掲載雑誌のインパクト・ファクター (IF) の合計が6以上の場合。複数筆頭著者による論文は1つまでとする。それ以外に、単独の筆頭著者となっている論文を1編以上必要とする。なお、複数筆頭著者による論文については、IFを筆頭著者の数で除した数値をもって評価の対象とする。
  - (2) 提出される学位論文が、主要国際誌<sup>\*2</sup> に掲載<sup>\*3</sup> されており、学位論文掲載雑誌のIFが3以上、又は各研究領域別IFランキングで上位5誌以内の雑誌 (ただし、IF≧1.000以上) である場合。なお、複数筆頭著者による論文については、IFを筆頭著者の数で除した数値をもって上記の評価の対象とする。
  - (3) 学位論文が、日本医学会の分科会又は国際学会で発表され、その学会の定めた賞を受賞

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

するなど、その内容が著しく優れていることが認められた場合。ただし、この場合、参考論文\*1が主要国際誌\*2に掲載\*3されていることを要す。

(注) \*1: 学位論文、副論文ともに、申請者が筆頭著者であるものに限る。副論文とは、主論文が作成された過程が分かる関連ある論文とする。

\*2: 査読制度の確立されているものに限る。

\*3: 掲載受理(決定)を含む。

(資料4-3-56 大学院3年修了の要件に係わる大学院医学研究科委員会申合せ事項)

#### 〈7〉 大学院スポーツ健康科学研究科

1) 成績評価では、各科目における筆記試験、レポート、プレゼンテーションおよび授業時における取組み(TBLでの発言や役割遂行状況など)、質疑応答の内容や思考度、独創性、専門知識の理解度などを考慮している。

2) 成績は科目ごとに100満点で評価している。評価(100点満点)は、秀(90点以上)・優(89から75点)・良(74から65点)、可(64から60点)・不可(59点以下)の五段階評価としており、不可と判定された場合は当該科目の単位を取得することはできない。なお、授業の3分の2以上の出席と、休んだ授業時間分を自主学習で補っている者を評価対象としており、授業時間外学習時間を含めて所定の単位時間分(1単位あたり45時間)の学習をもって単位付与することとしている。

(資料4-3-57 スポーツ健康科学研究科成績評価)

3) GPA制度を導入して、学修の到達度レベルを数値で評価できるようにしている。秀(90点以上)を4ポイント、優(89から75点)を3ポイント、良(74から65点)を2ポイント、可(64から60点)を1ポイント、不可(59点以下)と出席不足を0ポイントとして、各科目のポイントの和を履修科目数で除すことでGPAを求めている。

(資料4-3-58 スポーツ健康科学研究科学期途中での履修中止について)

#### 〈8〉 大学院医療看護学研究科

1) 授業科目の評価方法、評価基準および学位論文の評価並びに修了の認定については、シラバスに明記し、学生に配布している他、ホームページに公表している。

(資料4-3-59 大学院医療看護学研究科ホームページ「教育要項について」)

2) 授業科目の履修は、単位制としている。

3) 特別研究・課題研究については、研究計画発表及び論文最終発表の日時を学年暦にて公表し公開で行っている。当該学生の研究指導に直接携わっていない複数の教員から指導を受ける機会とし、研究の質の検証の機会としている。

4) 学位論文は、特別研究、課題研究のいずれも、主査と副査2名の教員による論文審査及び口頭試験で評価をしている。

5) 取得単位の認定は、授業科目担当者の評価をもとに、前期・後期に研究科委員会の議を経て決定していることから、厳格に行われている。

(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

【評価の視点】

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

- ・授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修の実施 (FD)
- ・学生による授業評価アンケート実施

#### 〈1〉 大学全体

- 1) 各学部で毎年 FD ワークショップを開催している。教職員に加え、臨床指導者、学生も参加し、教育成果の検証を行い、教育課程や教育内容・方法の改善に反映させている。
- 2) 全学部で学生による授業評価アンケートを実施している。評価結果を担当教員にフィードバックし、授業の質の改善を促している他、評価の高い教員を表彰する制度も整備している。

#### 〈2〉 医学部

- 1) 本学部の成績評価については教授会、教務委員会、カリキュラム委員会等で検討されている。更に、理事長・学長・医学部長・学生・大学院生・臨床研修医・教職員等が参加し毎年開催されている医学教育・卒後教育（成田）ワークショップ等でも検証されている。また、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に反映させている。
- 2) ワークショップでの提案された事項の実現として、「英語力向上を目的とした、TOEIC・TOEFLの導入」、「一般教養から基礎医学への連携強化のための、PBL 導入」、「臨床実習改善を目的とした実習期間の延長」「ICT 教育のためのマルチメディア教室の創設」「基礎研究者教育を目指した基礎ゼミナールの改善」等、数多くの成果があげられる。
- 3) 授業成果を確認するため、学生による授業評価を全ての講義・実習において実施している。集計した評価結果は当該担当教員にフィードバックし、教員個々による授業方法・内容の改善に反映され、学生教育に還元されている。また、評価結果は事務室内に保管され、教員・学生は自由に閲覧可能である。

#### 〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) 毎年、教育成果を検証するために教職員ワークショップを開催している。その時節の問題をテーマに掲げ、外部から有識者を招いた講演会やグループ別の討論会等を行い、最新の情報を収集し共通の理解を図っている。2011（平成 23）年度から 2013（平成 25）年度までのテーマは、「学部・研究科の将来構想」、「遠隔授業」、「大学教育を考える視点」、「国際化を考える」、「地域貢献」、「新教務システム（Juntendo Passport を利用した教育）」、「入試方法」、「シラバス」であった。

（資料 4-3-60 スポーツ健康科学部教職員ワークショップ一覧表）

（資料 4-3-61 スポーツ健康科学研究科教職員ワークショップ一覧表）

- 2) 授業内容の充実を図るため、学期中や学期の最後に学生による授業評価アンケートを実施している。速やかに結果を参照できるように、2013（平成 25）年度からはインターネット上で閲覧できる教務システム（Juntendo Passport）を活用して、各担当教員に集計結果をフィードバックしている。担当教員は、その結果を踏まえてリフレクションペーパーにより自己点検と評価を行うと共に、次年度シラバス作成や授業内容・方法・授業環境の改善などに役立てている。

（資料 4-3-62 スポーツ健康科学部授業評価実施案内）

（資料 4-3-63 スポーツ健康科学部リフレクションペーパー提出依頼）

（資料 4-3-64 スポーツ健康科学部リフレクションペーパー様式）

（資料 4-3-65 スポーツ健康科学部授業評価結果一覧）

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

#### 〈4〉 医療看護学部

- 1) 本学部の成績評価については教務委員会および教授会で検討されている。その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に反映させている。開学以来 FD 研修（教員ワークショップ）を実施しており、2011（平成 23）年度以降のテーマは、次のとおりである。

年度	テーマ
2011（平成 23）年度	教育スタイルの検証と新しい教育法の活用
2012（平成 24）年度	教育方法の課題と展望
2013（平成 25）年度	メンタル・パーソナリティ的な問題を持つ学生への対応

- 2) 実習教育については、実習委員会を中心に、臨地実習指導者と教員との実習指導者研修会を毎年開催している。2011（平成 23）年度以降のテーマは、次のとおりである。

年度	テーマ
2011（平成 23）年度	看護倫理と臨地実習～実習場面で指導者が向き合う倫理的ジレンマ～
2012（平成 24）年度	どうしていますか？朝の調整—充実した実習につなげるために—
2013（平成 25）年度	臨地実習指導を通して指導者側が得るもの

- 3) 学生による授業評価を行っており、評価結果を各教員にフィードバックし、授業方法、内容の改善に努めている。

（資料 4-3-66 医療看護学部授業評価アンケート用紙）

- 4) 学生カリキュラム委員会を組織して、学生の意見を取り上げ、検証に役立てている。

#### 〈5〉 保健看護学部

- 1) 毎月開催される教授会・教務委員会での検証のほか、FDの一環として毎年度実施される教員ワークショップにおいても教育成果の検証、教授方法の工夫検討を行っている。また、学生による授業評価アンケート、実習評価アンケートや学生実態調査アンケートの集計結果を基に、迅速に教育内容・方法の改善を行っている。

- 2) 教員ワークショップは、臨地実習で学生指導に関わる本学の医学部附属静岡病院の臨床指導者や他学部教員も参加し、ディスカッションを行い、学生が主体的に学ぶための工夫等、教育力の向上が図れる企画・運営をしている。2011（平成 23）年度以降のテーマは、次のとおりである。

年度	テーマ
2011（平成 23）年度	学生の状況と課題について～1年間学生に関わって見えてきた学生の特徴や傾向（問題・課題）から教育方法や対応を考える～
2012（平成 24）年度	教育力を高める取り組み—学生を惹きつける授業の工夫—
2013（平成 25）年度	アクティブ・ラーニングの活用～自ら学ぶ学生を育てる授業の工夫～

（資料 4-3-67 保健看護学部 FD ワークショップの歴史）

- 3) 授業方法の工夫だけでなく、臨地実習指導の評価、検証、在り方を検討するために、毎年、臨地実習指導者研修会を開催している。本学部の看護系教員の他、各臨地実習施設指導者の参加によるディスカッションが行われている。

- 4) 学生による授業評価アンケート、実習評価アンケートの結果は、各教員に返却され教員個々

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

による授業方法・内容の改善に反映されている。

#### 〈6〉 大学院医学研究科

- 1) 本研究科の教育成果については医学研究科委員会、大学院検討委員会等で常に検討されている。更に、理事長・学長・医学研究科長・学生・大学院生・臨床研修医・教職員等が参加し毎年開催されている医学教育・卒後教育（成田）ワークショップ等でも検証されており、そこでの提言を踏まえ、教育課程や教育内容・方法の改善を検討し、実行している。

（資料4-3-68 医学教育・卒後教育ワークショップの歴史（テーマ等一覧））

- 2) 大学院生による授業評価については従来より自由記述式にて実施していたが、2011（平成23）年度より授業評価票の見直し・改良を重ね、2013（平成25）年度においては、18の質問項目から成るマークシート式及び自由記述式を合わせた授業評価票による、より多角的な授業評価を実施している。集計された評価結果については匿名化された上で科目責任者及び担当教員にフィードバックされるとともに、大学院生は取りまとめられた集計結果を閲覧することが可能である。

（資料4-3-69 大学院医学研究科 出席票・授業評価アンケート用紙）

#### 〈7〉 大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 教育や研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み（FD）については、学部とは独立したFD委員会を設置して活動している。ただし、スポーツ健康科学部との兼任教員が多く、共通のテーマについては学部とワークショップを合同開催して効率的に実施している。2011（平成23）年度から2013（平成25）年度までの大学院独自のテーマは、「大学院のカリキュラム」、「学位基準の再考」、「1年制コースの検討」、「研究組織」であった。

（資料4-3-60 スポーツ健康科学部教職員ワークショップ一覧表）

（資料4-3-61 スポーツ健康科学研究科教職員ワークショップ一覧表）

- 2) 授業内容の充実を図るため、学期中や学期の最後に学生による授業評価アンケートを実施している。速やかに結果を参照できるように、2013年（平成25）年度からはインターネット上で閲覧できる教務システム（Juntendo Passport）を活用して、各担当教員に集計結果をフィードバックしている。担当教員は、その結果を踏まえてリフレクションペーパーにより自己点検と評価を行うと共に、次年度シラバス作成や授業内容・方法・授業環境の改善などに役立てている。

（資料4-3-70 スポーツ健康科学研究科リフレクションペーパー提出依頼）

（資料4-3-71 スポーツ健康科学研究科授業評価結果一覧）

- 3) 教育・研究委員会と研究科検討委員会を設置して教育課程の見直しを行っている。見直しの結果として、平成25年度より新しいカリキュラムが導入されている。

（資料4-3-72 スポーツ健康科学研究科委員会一覧）

（資料4-3-73 スポーツ健康科学研究科新旧カリキュラム一覧表）

#### 〈8〉 大学院医療看護学研究科

- 1) FDについては、学部と大学院の併任教員が多いことから、2007（平成19）年度から医療看護学部と合同で実施していたが、2010（平成22）年度からは医療看護学研究科で単独開催し、教育課程や教育方法の改善に結びつけている。

- 2) 2010（平成22）年度からの研修会・講演会は以下のとおりである。

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

年度	テーマ	講師
2010 (平成 22) 年度	アメリカで活躍する CNS&NP による上級看護実践と課題	Anne Miers Randi Hoffmann
	Amos による共分散構造分析	戸ヶ里 泰典
2011 (平成 23) 年度	米国の大学における高度実践看護職の動向	クローズ 幸子
	研究成果の実践への活用	中山 洋子
2012 (平成 24) 年度	研究課題の絞り込みと研究デザイン —量的・質的・ミックス法—	操 華子
2013 (平成 25) 年度	看護系大学院修士課程修了生が修得すべき能力	片田 範子

3) 学生による授業評価を行い、評価結果は各教員に返却され教員個々による授業方法・内容の改善に反映されている。

(資料 4-3-74 大学院医療看護学研究科授業評価アンケート用紙)

## 2. 点検・評価

### [基準 4]

大学は、その理念・目的を実現するために、教育目標を定めこれに基づき学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を明示しなければならない。また、こうした方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容と方法を整備・充実させ、学位授与を適切に行わなければならない。

#### ●基準 4 の充足状況

教育課程の編成・実施方針に基づきシラバスを作成し、ホームページにも公表している。授業概要、学習目標、学習内容、評価方法を明記し、高い学習効果を得られるよう工夫している。講義・演習・実習・少人数授業等、各学部・研究科の特色に応じ適切な授業形態を採用している。学部では、アドバイザー制・担任制・オフィスアワーの設定により、学習指導をきめ細かに実施している。大学院では、社会人学生のために、土曜開講、昼夜開講、e-learning、オンライン視聴での補講等、教育環境を整備している。教育内容と方法を充実させるための取り組みとして、FD ワークショップの開催と学生の授業アンケートを実施している。成績評価・単位認定については、CAP、GPA 制を導入し、単位の実質化を図るとともに、学則・大学院学則、各学部・各研究科の規程に基づき、厳格に運用されている。以上のことから、本基準を充足している。

#### ①効果があがっている事項

##### <1> 大学全体

- 1) シラバスに基づいた授業を展開できている。
- 2) 学生による授業評価を実施しており、評価結果を担当教員へフィードバックし、教育内容の質的充実を図っている。
- 3) FD ワークショップを開催し、毎年度教育内容・方法の改善を図っている。

##### <2> 医学部

- 1) 学業評価について、統合型カリキュラムで実施される講義毎に試験を実施し、その評価を

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

行い、学生の理解度を、年間を通じて確認している。

- 2) シラバスには、統合型カリキュラムで実施される講義毎に、「指定教科書」「参考教科書」「参考書」が指定されており、講義以外における自己学習の手助けとなっている。

#### 〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) 学習支援委員会や教務委員会と担任制度の連携によって、留年者や脱落者を未然に防ぐことができしており、標準修業年限4年間での卒業率が95%以上を維持している。

(資料4-3-10 スポーツ健康科学部修業年限4年での学科別卒業率 (H23-25))

- 2) 教務システム (Juntendo Passport) を導入してシラバスや履修登録、成績処理、授業評価等の情報を一カ所で容易に管理できるようになり、学生と教職員の双方が、これらの情報を利用しやすくなった。例えば、授業評価結果を瞬時に処理して閲覧できることにより、学期中にも調査と結果のフィードバックを迅速に行えるので、開講中の授業改善にも活かせるようになった。

(資料4-3-65 スポーツ健康科学部授業評価結果一覧)

(資料4-3-40 スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科 Juntendo Passport 利用の手引き)

- 3) シラバス様式の改善とシラバス第三者チェックによって、シラバスに記載する内容が具体的に明確になった。

#### 〈4〉 医療看護学部

- 1) 英語力の客観的評価指標として、TOEFL ITP を導入し、TOEFL の内容に則した教育を行っている。

- 2) シラバスの内容について、教務委員・カリキュラム委員が、第三者チェックを行っている。

#### 〈5〉 保健看護学部

- 1) 臨地実習指導者研修会を開催し、各臨地実習施設指導者との指導方法や評価方法についての共通理解、認識がなされている。

(資料4-3-75 臨地実習指導者研修会 プログラム)

#### 〈6〉 大学院医学研究科

- 1) 修士課程において、昼夜開講制・VOD システムによる補講を導入し、社会人をはじめとする大学院生に配慮した教育方法が整っている。それにより、修士課程開設初年度である2013 (平成 25) 年度は1年次大学院生全員が2年次へ進級した。

- 2) 博士課程においては、従来より実施している3年次ポスターセッションによる研究中間発表に加え、2012 (平成 24) 年度より、1年次に「研究計画書」、2年次に「研究進捗状況報告書」を提出することを必須としたことにより、研究指導教員や研究進捗状況が客観的にも明確となり、研究指導体制がより強化されることとなった。学位授与率及び学位 (甲) 取得者の平均 IF (2010~2013 (平成 22~25) 年度平均≒3.00) は高水準で推移しており、学位取得までの指導が適切に行われている。

(資料4-3-76 順天堂大学博士 (医学) 学位授与者数推移)

- 3) 学生による授業評価アンケートを集計し、匿名化した授業評価結果を担当教員と責任者にフィードバックすることにより、担当講義の見直しや改善に役立てることができている。

- 4) 2012 (平成 24) 年度より開始した独立行政法人 国立がん研究センターとの連携大学院制度により設けられた「最先端がん臨床研究コース」には多くの入学者があり (2012 (平成

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

24) 年度：23名、2013（平成25）年度：13名）、全員が順調に単位を取得し、進級できている。

#### 〈7〉 大学院スポーツ健康科学研究科

1) スポーツ健康科学部と同様に、教務システム（Juntendo Passport）を導入したことによりシラバスや履修登録、成績処理、授業評価等の情報を一カ所で容易に管理できるようになり、学生と教職員の双方が、これらの情報を利用しやすくなった。

（資料4-3-40 スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科 Juntendo Passport 利用の手引き）

（資料4-3-71 スポーツ健康科学研究科授業評価結果一覧）

2) 博士前期課程では、授業評価や FD ワークショップでの議論を踏まえてカリキュラム改正が行われた。2013（平成25）年度入学生から新しいカリキュラムが適用されている。

（資料4-3-73 スポーツ健康科学研究科新旧カリキュラム一覧表）

### ②改善すべき事項

#### 〈3〉 スポーツ健康科学部

1) 学生の計画的な履修をさらに促すために、カリキュラムの体系を明示する必要がある。

（資料4-3-77 スポーツ健康科学部科目ナンバリング説明文書・一覧表）

2) 授業評価の回収率を高める工夫が必要である。

（資料4-3-78 スポーツ健康科学部授業評価回収率推移）

3) 学生がアポイントメントなしに質問や相談をできる時間として、全ての専任教員がオフィスアワーを設けてシラバスに明示する必要がある。

（資料4-3-79 スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科シラバス様式（H26年度用））

#### 〈4〉 医療看護学部

1) 英語力のレベル別授業を実施できていない。

#### 〈5〉 保健看護学部

1) 教員 FD 研修会で、学生からの意見を聞き、質的向上を図る仕組みが確立されていない。

2) 臨地実習における、卒業までの看護技術到達度、到達目標が明確にされていない。

3) シラバスの第三者チェックが、カリキュラム委員のみで実施されている。

#### 〈6〉 大学院医学研究科

1) シラバスの記載内容について、担当教員以外の第三者によるチェック体制が整っていない。

2) 講義受講にあたっての準備学習時間・内容がシラバスに明示されておらず、到達目標についても一部明示されていない科目がある。

#### 〈7〉 大学院スポーツ健康科学研究科

1) 博士後期課程では、標準修業年限内での学位取得率をさらに高める工夫が必要である。

（資料4-3-80 スポーツ健康科学研究科標準修業年限3年での学位取得率推移）

2) 学生の計画的な履修をさらに促すために、カリキュラムの体系を明示する必要がある。

3) 授業評価の回収率を高める工夫が必要である。

（資料4-3-81 スポーツ健康科学研究科授業評価回収率推移）

4) 学生がアポイントメントなしに質問や相談をできる時間として、全ての専任教員がオフィ



## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

スアワーを設けてシラバスに明示する必要がある。

(資料4-3-79 スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科シラバス様式 (H26年度用))

- 5) それぞれの授業について、研究科の方針に沿った内容と方法が実施されていることを保証するため、スポーツ健康科学部と同様に、第三者によるシラバスの確認が必要である。

(資料4-3-41 スポーツ健康科学部シラバスピアレビュー依頼状)

(資料4-3-42 スポーツ健康科学部シラバスピアレビュー様式)

#### 〈8〉 大学院医療看護学研究科

- 1) シラバス記載内容が適正であるかについて、担当教員以外の第三者がチェックを行う体制ができていない。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ① 効果があがっている事項

##### 〈1〉 大学全体

- 2015 (平成 26) 年度より、全科目を対象として、シラバスに準備学習時間、到達目標を明記し、学生の自己学習を促し、アクティブラーニングへの転換を図るようにする。
- 学生の授業評価を継続実施し、教育内容を充実させるとともに、教員表彰も継続し、教員の意欲向上と大学教育の活性化を図っていく。
- 各学部・研究科において、FD ワークショップを継続して開催し、更なる教育内容・方法の改善を図るとともに、教員の資質向上に努める。

##### 〈2〉 医学部

- 進級について、単に進級要件単位を取得するだけでなく、当該単位がどのような評価を伴うものであるかを可視化することにより、個々の学修の質をより高めることを目的として、学業評価に順次 GPA を導入する。
- 学生が学習内容をより理解し易くなる事を目的として、2014 (平成 26) 年度より、全ての講義について、「準備学習 (予習・復習等)」、「到達目標」、「授業形式」を追加する等、シラバスの内容を更に充実させる。

##### 〈3〉 スポーツ健康科学部

- 高い卒業率を維持・向上させるためには、学生が着実に学習を進められるように制度設計をする必要がある。そのため、単位の実質化と計画的な履修を促すことが期待できる CAP 制を導入した。今後は、科目ナンバリングを明示することで科目の位置付けへの理解を深めさせる。

(資料4-3-14 スポーツ健康科学部 CAP 制・GPA に関する説明文書)

(資料4-3-77 スポーツ健康科学部科目ナンバリング説明文書・一覧表)

- 教務システム (Juntendo Passport) は、まだ試験的な運用段階であり、利便性や内容をさらに改善する。また、システムの機能を十分に活用できていない教員もいるので、利用ガイドを充実させるなどしてノウハウの共有を図り、学生と教員の双方の利用度を上げていく。

(資料4-3-40 スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科 Juntendo Passport 利用の手引き)

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

3) 科目ナンバリングやカリキュラムマップを作成して、シラバス第三者チェックにおいても教育課程における体系的な視点からも当該科目の学習内容を点検しやすいようにする。

(資料4-3-77 スポーツ健康科学部科目ナンバリング説明文書・一覧表)

#### <4> 医療看護学部

1) TOEFL の内容に則した教育を推進する。

2) シラバスの第三者チェックを継続するとともに、学生の自学自習を促す内容となるよう、教務委員会を中心に検討を進める。

#### <5> 保健看護学部

1) 臨地実習指導者研修会を継続して毎年開催し、相互理解を深め、連携して実習指導にあたる。

#### <6> 大学院医学研究科

1) 2013 (平成 25) 年度は修士課程開設初年度であったが、教育研究指導は極めて順調である。

2 年次の学位取得まで引き続き学生に対する指導を行っていく。

2) 博士課程においても、継続してきめ細かい研究指導を行い、研究進捗状況を把握しつつ、英語教育の充実等により、より国際性の高い研究者の育成を図っていく。

3) 2013 (平成 25) 年度より、授業評価アンケートの評価項目を増やし、より多角的な評価を行うことが可能となったことから、各科目のアンケート回答内容を十分に分析・活用するとともに、FD 等で確認・検証し、教育研究指導の質の向上・改善に努めていく。

4) 連携大学院制度については、2014 (平成 26) 年度より新たに「高度専門医療研究コース」(国立国際医療研究センター) 及び「アレルギー・臨床免疫研究コース」(国立病院機構相模原病院) の2つのコースを開設する。

#### <7> 大学院スポーツ健康科学研究科

1) 教務システム (Juntendo Passport) は、まだ試験的な運用段階であり、利便性や内容をさらに改善する。また、システムの機能を十分に活用できていない教員もいるので、利用ガイドを充実させるなどしてノウハウの共有を図り、学生と教員の双方の利用度を上げていく。

(資料4-3-40 スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科 Juntendo Passport 利用の手引き)

2) より広い視野からスポーツ健康科学の教育研究を推進できるようにカリキュラムを改正したが、改正されたカリキュラムの特徴が学生に十分に伝わっているとはいえ、履修ガイダンスでの指導を通じて学生の一層の理解を促す。

(資料4-3-28 H25 スポーツ健康科学研究科ガイダンス配布資料 (前期在学学生))

(資料4-3-29 H25 スポーツ健康科学研究科ガイダンス配布資料 (後期在学学生))

## ②改善すべき事項

### <3> スポーツ健康科学部

1) 科目ナンバリングを導入する。また、カリキュラムマップとカリキュラムツリーを作成してカリキュラムを可視化する。これらの取り組みによって、学生が科目の位置付けやカリキュラムの構造を理解して、より計画的な学修を進められる環境を整える。

(資料4-3-77 スポーツ健康科学部科目ナンバリング説明文書・一覧表)

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

2) 2013 (平成 25) 年度からインターネット上での教務システムを活用した授業評価アンケートに移行したため、学生が回答する際に混乱があった (2011 (平成 23) -2012 (平成 24) 年度 70%以上から 2013 (平成 25) 年度 50%以下へと低下)。アンケートの実施時期には、教務システムの利用ガイドを用いて各授業内でも授業評価の意義を伝えることにより、回収率の増加を目指す。また、アンケートの実施方法を再検討するとともに、学生の参加意識と回答意欲の向上を促すためにも授業評価結果を学生へ公表することも検討する。

(資料 4-3-40 スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科 Juntendo Passport 利用の手引き)

(資料 4-3-78 スポーツ健康科学部授業評価回収率推移)

3) シラバスにオフィスアワーの明示を義務付けることにより、受講生が各教員のオフィスアワーを確認できるようにする。

(資料 4-3-79 スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科シラバス様式 (H26 年度用))

#### 〈4〉 医療看護学部

1) 英語のレベル別に授業を行えるよう体制を整え、学生の能力に応じた指導を行う。

#### 〈5〉 保健看護学部

1) FD 研修会に学生の代表を参加させ、学生側からの意見も参考に教育内容の質的転換を図っていく。

2) 看護技術到達度、到達目標を明確にして、看護技術経験録表を作成する。

3) シラバスの第三者チェックについて、ピアレビューのシステムを確立させる。

#### 〈6〉 大学院医学研究科

1) 科目責任者以外の第三者によるシラバス記載内容チェックを実施する。

2) 各科目の準備学習時間・内容及び到達目標をシラバスに明記する。

#### 〈7〉 大学院スポーツ健康科学研究科

1) 博士後期課程では、従来一元的でやや自然科学分野の基準に偏っていた博士学位論文提出資格 (学位申請基準) を多様化した。また、学内における大学院生向けの競争的研究資金を充実させている。これらの新基準や支援の導入によって、学位取得に向けて各学生の専門分野に合った研究計画を推進しやすくなった。

(資料 4-3-82 スポーツ健康科学研究科博士学位論文提出資格)

(資料 4-3-83 学内共同研究募集要項)

2) 科目ナンバリングを導入する。また、カリキュラムマップとカリキュラムツリーを作成してカリキュラムを可視化する。これらの取り組みによって、学生が科目の位置付けやカリキュラムの構造を理解して、より計画的な学修を進められる環境を整える。

3) 2013 (平成 25) 年度からインターネット上での教務システムを活用した授業評価アンケートに移行したため、学生が回答する際に混乱があった。アンケートの実施時期には、教務システムの利用ガイドを用いて各授業内でも授業評価の意義を伝えることにより、回収率の増加を目指す。また、アンケートの実施方法を再検討するとともに、学生の参加意識と回答意欲の向上を促すためにも授業評価結果を学生へ公表することも検討する。

(資料 4-3-40 スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科 Juntendo Passport 利用の手引き)

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

(資料4-3-81 スポーツ健康科学研究科授業評価回収率推移)

- 4) シラバスにオフィスアワーの明示を義務付けることにより、受講生が各教員のオフィスアワーを確認できるようにする。

(資料4-3-79 スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科シラバス様式 (H26年度用))

- 5) シラバスの第三者チェックを実施する。実施にあたっては、スポーツ健康科学部のピアレビューの基準を活用する。

(資料4-3-41 スポーツ健康科学部シラバスピアレビュー依頼状)

(資料4-3-42 スポーツ健康科学部シラバスピアレビュー様式)

#### 〈8〉 大学院医療看護学研究科

- 1) シラバスの第三者チェックを行うよう検討を進める。

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

#### 4. 根拠資料

- 資料4-3-1 第四期臨床実習概要
- 資料4-3-2 スポーツ健康科学部パンフレット
- 資料4-3-3 スポーツ健康科学部 TA 採用基準申し合わせ事項
- 資料4-3-4 スポーツ健康科学部総合講座シラバス
- 資料4-3-5 スポーツ健康科学部総合講座（前期）道しるべ
- 資料4-3-6 スポーツ健康科学部コンピュータ実習シラバス
- 資料4-3-7 スポーツ健康科学部コンピュータ実習履修者数（H23-25）
- 資料4-3-8 スポーツ健康科学部学生便覧
- 資料4-3-9 スポーツ健康科学部出席調査依頼状（学修支援委員会）
- 資料4-3-10 スポーツ健康科学部修業年限4年での学科別卒業率（H23-25）
- 資料4-3-11 スポーツ健康科学部海外英語研修プログラム参加者募集案内
- 資料4-3-12 スポーツ健康科学部海外英語研修プログラム参加者数推移
- 資料4-3-13 スポーツ健康科学部履修計画表
- 資料4-3-14 スポーツ健康科学部 CAP 制・GPA に関する説明文書
- 資料4-3-15 新入生キャンプ実施要領
- 資料4-3-16 学外施設学習申請書
- 資料4-3-17 国立がん研究センター最先端がん臨床研究コース
- 資料4-3-18 順天堂ホームページ「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」
- 資料4-3-19 3年次ポスターセッション案内・要領
- 資料4-3-20 スポーツ健康科学研究科大学院科目一覧表
- 資料4-3-21 スポーツ健康科学研究科「研究論文作成の基礎と展開」シラバス
- 資料4-3-22 スポーツ健康科学研究科「研究論文作成の基礎と展開」課題発表会案内
- 資料4-3-23 スポーツ健康科学研究科スポーツロジ序論シラバス
- 資料4-3-24 スポーツ健康科学研究科スポーツロジ序論プログラム
- 資料4-3-25 スポーツ健康科学研究科スポーツロジ序論説明会資料
- 資料4-3-26 スポーツ健康科学研究科博士前期課程プラクティカム実施要項
- 資料4-3-27 スポーツ健康科学研究科博士前期課程プラクティカム実習ノート
- 資料4-3-28 H25 スポーツ健康科学研究科ガイダンス配布資料（前期在学生）
- 資料4-3-29 H25 スポーツ健康科学研究科ガイダンス配布資料（後期在学生）
- 資料4-3-30 スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学研究方法論シラバス
- 資料4-3-31 スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学研究法実習シラバス
- 資料4-3-32 スポーツ健康科学研究科特別研究シラバス
- 資料4-3-33 スポーツ健康科学研究科博士課程要覧
- 資料4-3-34 スポーツ健康科学研究科スポーツロジ実践英語シラバス
- 資料4-3-35 スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学英語特別講義シラバス
- 資料4-3-36 スポーツ健康科学研究科パンフレット（H25）
- 資料4-3-37 医療看護学研究科時間割
- 資料4-3-38 スポーツ健康科学部シラバス（既出 資料4-1-4、資料4-2-2）
- 資料4-3-39 スポーツ健康科学部シラバス作成要領

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

- 資料4-3-40 スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科 Juntendo Passport 利用の手引き
- 資料4-3-41 スポーツ健康科学部シラバスピアレビュー依頼状
- 資料4-3-42 スポーツ健康科学部シラバスピアレビュー様式
- 資料4-3-43 スポーツ健康科学研究科シラバス (前期課程)
- 資料4-3-44 スポーツ健康科学研究科シラバス (後期課程)
- 資料4-3-45 スポーツ健康科学研究科シラバス作成要領
- 資料4-3-46 スポーツ健康科学研究科ホームページ Q&A
- 資料4-3-47 医療看護学研究科教育要項 抜粋
- 資料4-3-48 順天堂大学学則  
第70条第2項、第94条第3項、第118条第3項、第124条第3項
- 資料4-3-49 順天堂大学大学院学則 第8条第3項、第4項
- 資料4-3-50 スポーツ健康科学部既習単位認定
- 資料4-3-51 スポーツ健康科学部放送大学開講科目の単位認定資料
- 資料4-3-52 順天堂大学医療看護学部単位認定評価に関する規程
- 資料4-3-53 順天堂大学保健看護学部単位認定評価に関する規程
- 資料4-3-54 順天堂大学保健看護学部単位認定評価に関する規程に関わる実施申し合わせ事項
- 資料4-3-55 順天堂大学大学院医学研究科規程 第5条
- 資料4-3-56 大学院3年修了の要件に係わる大学院医学研究科委員会申合せ事項
- 資料4-3-57 スポーツ健康科学研究科成績評価
- 資料4-3-58 スポーツ健康科学研究科学期途中での履修中止について
- 資料4-3-59 大学院医療看護学研究科ホームページ「教育要項について」  
<http://www.juntendo.ac.jp/graduate/nurs/syllabus/outline.html>
- 資料4-3-60 スポーツ健康科学部教職員ワークショップ一覧表
- 資料4-3-61 スポーツ健康科学研究科教職員ワークショップ一覧表
- 資料4-3-62 スポーツ健康科学部授業評価実施案内
- 資料4-3-63 スポーツ健康科学部リフレクションペーパー提出依頼
- 資料4-3-64 スポーツ健康科学部リフレクションペーパー様式 (既出 資料3-54)
- 資料4-3-65 スポーツ健康科学部授業評価結果一覧
- 資料4-3-66 医療看護学部授業評価アンケート用紙
- 資料4-3-67 保健看護学部FDワークショップの歴史
- 資料4-3-68 医学教育・卒後教育ワークショップの歴史 (テーマ等一覧)  
(既出 資料3-7)
- 資料4-3-69 大学院医学研究科 出席票・授業評価アンケート用紙 (既出 資料3-65)
- 資料4-3-70 スポーツ健康科学研究科リフレクションペーパー提出依頼
- 資料4-3-71 スポーツ健康科学研究科授業評価結果一覧
- 資料4-3-72 スポーツ健康科学研究科委員会一覧
- 資料4-3-73 スポーツ健康科学研究科新旧カリキュラム一覧表
- 資料4-3-74 大学院医療看護学研究科授業評価アンケート用紙

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3) 教育方法

- 資料4-3-75 臨地実習指導者研修会 プログラム
- 資料4-3-76 順天堂大学博士（医学）学位授与者数推移
- 資料4-3-77 スポーツ健康科学部科目ナンバリング説明文書・一覧表
- 資料4-3-78 スポーツ健康科学部授業評価回収率推移
- 資料4-3-79 スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科シラバス様式（H26年度用）
- 資料4-3-80 スポーツ健康科学研究科標準修業年限3年での学位取得率推移
- 資料4-3-81 スポーツ健康科学研究科授業評価回収率推移
- 資料4-3-82 スポーツ健康科学研究科博士学位論文提出資格
- 資料4-3-83 学内共同研究募集要項